

ハンセン病映画祭

鈴木亮平主演！

今SHIBUYAでしか出会えない映画祭
「ハンセン病映画祭」オープニング！

ハンセン病映画祭
ボランティア募集中！



映画祭運営など

回復者の方との交流



【上映映画】『ふたたび』

swing me again

1月23日(木) 【トークショー】
森元美代治氏(回復者の方)

2月21日(金) 【モデレータ】
谷崎テトラ氏(構成作家)
檜山 大輔 (NPO法人わびねす)

開場18:30～開演19:00～

@渋谷ユーロライブ 参加費無料



森元 美代治
(回復者の方)



高島 雄太
(インドネシア
ハンセン病支援)



檜山 大輔
(NPO 法人わびねす)



笹川保健財団
SASAKAWA
Health Foundation

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

1/23(木)
2/21(金)
ユーロライブ
開演 19:00~

東京都渋谷区円山町1-5

『ふたたび swings me again』

開場は開演の30分前です
上映日程

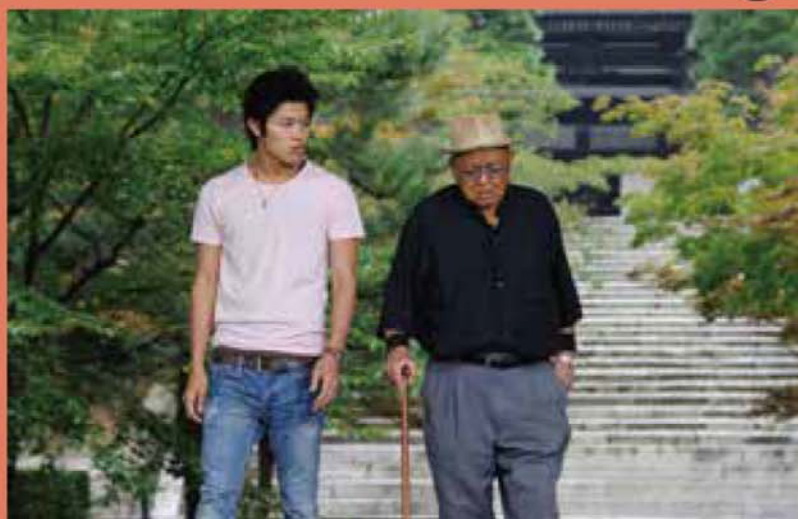


予約お申し込みは
こちら！

トークショー：

森元美代治（回復者の方）
斎崎テトラ（作家）
島雄太（インドネシアハンセン病支援）
檜山大輔（NPO 法人わびねす）

ハンセン病の療養所を50年ぶりに
退院した健三郎（財津一郎）を迎えた貴島家。
大学生の大翔（鈴木亮平）には、祖父が生きていたことは初耳だった。
しかも、その健三郎が幻のジャズバンド
“COOL JAZZ QUINTETTE” のトランペッターだったことを知る。
ある日、バンド仲間探しの旅に出ると言い出した健三郎に、
大翔は付いていくことになり……。



監督 塩屋俊 © 2010「ふたたび」製作委員会
出演 鈴木亮平 渡辺貞夫
陣内孝則 財津一郎
2010年 111分



トークショー：後藤泉稀
（原作作文を書いた当時中学生）
金貴粉
（国立ハンセン病資料館学芸員）

「ハンセン病とは？」
金泰九さんの暮らす長島愛生園とハンセン病の歴史を描く。
長い間、ハンセン病患者を苦しめた「らい予防法」についても、
その悲しい歴史を紐解いていく。
そして金さんの生い立ち、入所当時の思い、
今、私たちに望むことなどを
聞き出していく。

『こんにちは 金泰九さん ハンセン病 問題から 学んだこと』



2/23(日)
国立ハンセン病
資料館
開演 13:00~

東京都東村山市
青葉町4丁目1-13

2/24(月)
国立ハンセン病
資料館
開演 13:00~

東京都東村山市
青葉町4丁目1-13

『砂の器』



ある日、国鉄蒲田操車場構内で
扼殺死体が発見された。
被害者の身許が分らず、捜査は難航したが、
事件を担当した警視庁刑事・今西と
西蒲田署刑事・吉村は地道な聞き込みの結果、
事件前夜、被害者と酒を飲んでいた若い男の存在に行き当たる。
今西と吉村の2人は東北なまりの“カメダ”という言葉で
数少ない手掛かりに、男の行方を追う。
しかし2人の執念の捜査もなかなか実を結ばず、
犯人へと繋がる有力な情報は得られない日々が続いた。
迷宮入りかと思われたが、
小さな新聞記事がきっかけとなり、
捜査は急展開を見せ始めた。

ロサンゼルス・アウェアネス映画祭で優秀賞受賞
「世界人権映画祭」金賞（インドネシア）
監督 高木 裕己
制作 2015年
上映 25分

監督 野村芳太郎 原作 松本清張
出演 丹波哲郎 加藤剛
制作 1974年
上映時間 143分

ハンセン病
ボランティア
ショートムービー
毎回上映



トーク：中山節夫
（あつい壁 監督）

昭和二八年に熊本で
実際に起きた
黒髪小学校事件を骨子に、
一市民一家の悲劇を通して、
ハンセン病への
偏見と差別を告発した作品。

『あつい壁』



脚本・監督 中山節夫 1970年 製作
撮影 内田周作 95分
出演 笠智衆 桜井純子

《お問い合わせ先》

ハンセン病映画祭事務局
一般社団法人ユーラシア国際映画祭
〒191-0003 東京都日野市多摩平 2-5-1
電話 080-6687-4118
FAX 03-6674-1741
info@eurasiafilmfestival.net